

【概要】

2019年度住宅ローン借換えの実態調査結果

※「民間住宅ローン借換えの実態調査」から調査名称を変更いたしました。

I 調査の概要

本調査は、2019年4月～2020年3月に住宅ローンの借換えをされた方を対象に、借換えによる住宅ローンの金利タイプの変化などについて、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。

本調査は、2007年度※から継続して実施しております。

(参考) 調査実施時期：2020年5月26日～6月4日、回答数：1,000件

II 調査結果の主なポイント

〈〉は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 借換えにより、金利タイプは「変動型」が増加し、「固定期間選択型」、「全期間固定型」は減少〈p. 2〉

〈借換え前後の金利タイプ構成比〉

- ・「変動型」：借換え後 49.2%（借換え前 42.8%）
- ・「固定期間選択型」：同 40.5%（同 41.9%）
- ・「全期間固定型」：同 10.3%（同 15.3%）

2 借換理由は、「金利が低くなるから」、「返済額が少なくなるから」、「適用金利が上昇し、返済額が増加するから」が上位〈p. 8〉

〈借換えを行った理由〉

- ・借換理由では、借換え後の全ての金利タイプにおいて「金利が低くなるから」が最も多く、次いで「返済額が少なくなるから」となった。
- ・一方、固定期間選択型及び全期間固定型では、「今後の金利上昇や毎月の返済額増加が不安になったから」とする回答の割合が三番目に高くなった。

3 借換えによる毎月返済額の減少分の使途は、「生活費」、「教育資金」、「貯蓄（住宅リフォーム資金以外）」が上位〈p. 14〉

〈借換えによる毎月返済額の減少分の使途〉

- ・借換えによる毎月返済額の減少分の使途は、全ての金利タイプにおいて「生活費に充てた」、「教育資金に充てた」、「貯蓄（住宅リフォーム資金以外）」の順となった。

本調査結果の詳細は、住宅金融支援機構ホームページ(https://www.jhf.go.jp/about/research/loan_user.html)に掲載

※ 本調査の開始年度について2014年度としておりましたが、正しくは2007年度なので訂正しております。